

ようじえんだより 2018年度5月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

5月主題『みる・うごく』

主題聖句：わたしは良い羊飼いである ヨハネによる福音書10章11節

☆ 0～2歳児：神さまがつくられた風や光を感じながら花や虫などを見る。新しい環境や生活リズムに慣れて、安心して過ごす。まわりの人に気づき、共に過ごすことを喜ぶ。

☆ 3～5歳児：聖書のお話にふれ、イエスさまに親しみを覚える。自分の好きな遊びや場所が見つかる。花や虫などを身近に感じ、心動かしたり、かかわろうとする。自分の気持ちを身近な人に気づいてもらって過ごす。

名前を呼んでいますか？

人には皆、名前があります。草花や動物にもその種の名前がありますが、一つ一つの命に名前があるのは、人間だけかもしれません。しかし人間にも名前を呼び合わない関係がしばしばあります。それは「慣れ」であったり「心的距離」が原因かもしれませんが、家庭でも職場でも意外と名前を呼び合わない関係は存在します。たとえば、結婚直後までは互いを名前で呼び合っていたのが、いつの間にか「パパ」「ママ」になり、それもいつの間にかなくなっていき、「ねえ」「ちょっと」「あんた」という呼びかけに変化していく夫婦は意外と多いものです。

私は名前を呼ぶことが信頼関係を築いていく上で大切なことと考えています。特に前任地の幼稚園では、子どもの名前を呼ぶことで「ぼくのこと(わたしのこと)知ってるの？」という反応と共に距離がグッと縮まったこと、泣いている乳児にも毎日毎日名前を呼び続けることで、「この人はぼくを守ってくれる人だ」と思ってくれたようで、よくなついてくれました(逆にあまり名前を呼んでいなかった子とは打ち解けるのに

時間がかかりました)。この経験から私は十日町幼稚園の職員の名前は全員覚えてから赴任しましたし、子どもの顔と名前も集合写真で必死に覚えました。

名前を取り戻す＝信頼関係を取り戻す

宮崎駿さんのアニメに「千と千尋の神隠し」という作品があります。千尋という女の子が化け物の世界に迷い込み、湯ばあばという銭湯の女主人に名前を忘れさせられ、代わりに「千(せん)」という名前を与えられます。物語の終わりには千尋は自分の名前を取り戻し、湯ばあばの支配から解放され、元の世界に戻ることができたというお話ですが、これも名前が人物の存在や人格を表す大切なものであることを教えてくれています。

聖書にも「羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す」という言葉があります。羊飼いである神様(イエス様)は私たち一人一人を覚えてその名をよんでくださるということです。一人一人の名前を呼び合うことで、目に見えないけど大切な信頼関係を築いていきましょう。

園長：久保田愛策

年間主題『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

主題聖句：愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

新約聖書 ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節